

うしお

第 67 号

3 6, 1 1, 3 0

目 次

一般漁況（11月分）	漁業部	1
10月のマグロ、カジキ漁況	漁業部	3
定置観測（10月分）	養殖部 東邦彦	6
枕崎湾魚礁効果調査結果概要	塩田正人 荒牧孝行	9
未利用資源の利用について（ウニの生産と加工化）	製造部 下窪 諭	12
普及員：だより（第2報）	志布志町駐在 西 清晴	15
奄美短信	大島分場	21
各部の動き	編集部	22
分場の動き	大島分場	25
養魚場の動き	大口養魚場	26

鹿児島市塩屋町十八番地の七

鹿児島県水産試験場

一般漁況 (/ / 月中旬現在)

漁業部

§ 屋久島近海の小型船によるサバ釣漁況はその後大きな変化は見られず、天候さえ順調であれば500Kg～5,000Kgの漁で鹿児島港に入港している。

§ 薩南海域の瀬魚 / 本釣漁船は連日 / ～ 2 隻入港し、1,000 Kg ～ 1,500 Kg の漁である。

§ 本県近海で操業している巾着漁船は本月に入つて大中ムロの好漁が南薩海域～屋久島近海で一時見られ、最高2,000箱の漁もあつたがその後進展していない。

§ 湾内の八田網漁業も湾口附近で / ～ 2 統の漁船がムロの好漁を / ～ 2 回見たゞけで振わず、片ロイワシの漁も数回最高2,000 Kg の漁があつたゞけで目立つた漁はなかつた。

§ ブリ飼付漁況も不漁で、山川方面では / 日 / 0 本内外の漁である。

§ 東支那海サバはね釣漁況第 / 報

近年不漁が続いている東海のサバはね釣漁場は例年初漁が見られる / 0 月上旬までは水温が例年より高目であつたが中～下旬にかけて急に下降して来たようで初漁が見られるのではないかと期待していたが / / 月 / 4 日その第 / 船が約 20 屯の漁で入港した。漁場は N 28°-08' E 123°-27' 附近で / 晩平均 1,000 貫 (4,000 Kg) の漁で、 / / 月 5 日魚群発見、6 日より / 0 日迄で 5 晩操業である。

尚、魚体は 450g ～ 650g の大型魚で漁場の水温は 22.5℃ ～ 23.0℃ であつた。

各港の主漁業の入港船数と水揚げ

漁港名	漁業名	入港船数	総漁獲量	主魚種	主漁場
串木野	巾着網(双手)	28統	10,536 Kg	ムロ、アジ、サバ	串木野沖合
枕崎	カツオ船	大型 8統	148,500 Kg	カツオ	屋久島～南薩 南薩海域
		小型 15統	35,100 Kg		
	片手巾着	11統	8,200 箱	アジ、ムロ、サバ	
	双手巾着	9統	4,500 箱	豆アジ、ムロ	
山川	ブリ、餌付	19統	1,800 尾	ブリ	山川沖
	カツオ船	大型 10統	167,719 Kg	カツオ	
		小型 16統	31,653 Kg		
	八田網	7統	38,440 Kg	ムロ、サバ	湾口附近
鹿兒島	サバ釣	8統	16,700 Kg	大サバ	屋久島
	片手巾着	7統	42,180 箱	サバ、アジ	五島西方

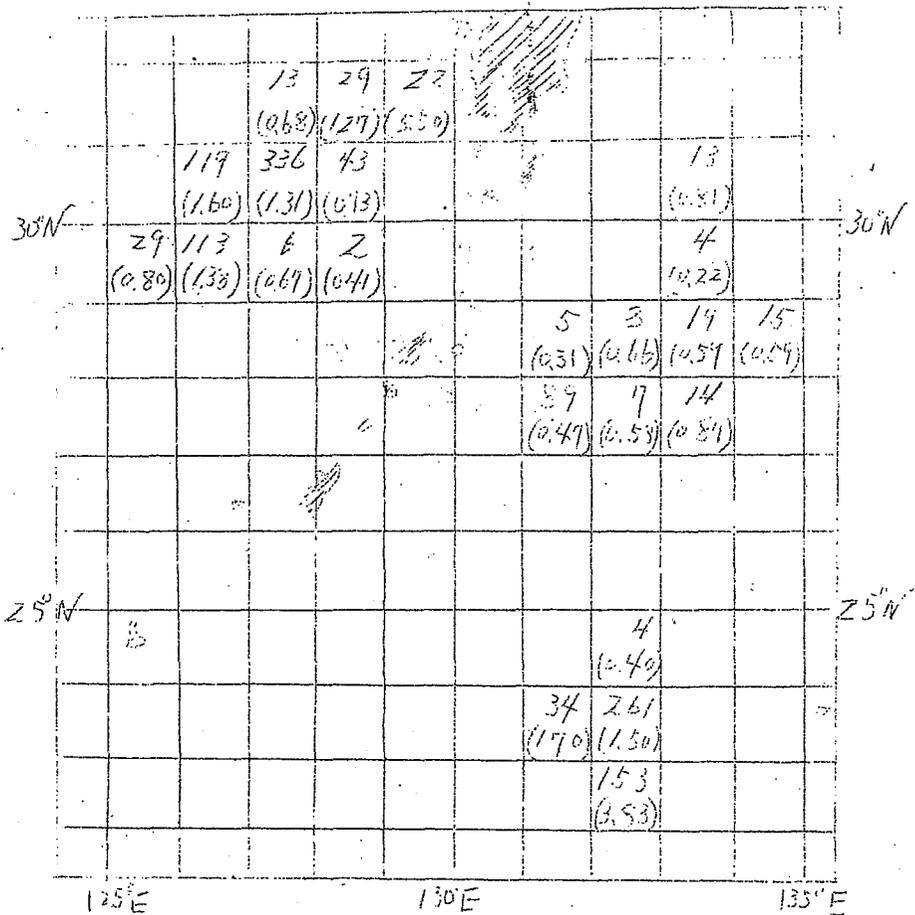
10月のマグロ、カジキ漁況

漁業部

停頓していたマグロ、カジキ延縄漁況も10月に入り南西諸島東方でのピンナガ漁期に入った事と引続いて操業海域となつている東支那海のバシヨウカジキ、シロカジキを主目的とした東海北東部海域の漁況がやゝ好転した事から若干活況を示して来た。

東支那海のカジキ類の合計釣獲率は1%を上廻り、草垣島附近では1回の操業記録ではあるが釣数400本に対しバシヨウ22尾の好漁を見た船もあり、東支那海ではカジキが全漁獲物(サメを除く)の6割以上を占めて魚体は25Kg~30Kgが主で最高55Kgまでとなつている。バシヨウに次いでシロカジキが多く、主漁場は30°N、127°E附近で釣獲率0.3%内外で魚体は大小入り混り65Kg程度がやゝ多くなつている。その他クロ、マカ、メカの漁獲が若干見られているが、0.1%にも満たない海域が大部分である。

一方、太平洋側の漁況は今だ初期で、10月中に漁獲されたピンナガは鹿児島港だけで180尾で、魚体は25Kg内外の大型魚であるが釣獲率は今だ低く、0.15%である。キハダは体重25Kg~30Kgが主で、釣獲率0.2%、メバチは25Kg内外の魚体が主で釣獲率0.11%を示し、太平洋側での魚種組成は全体の4割強はキハダでピンナガがそれに次ぎ3割程度、メバチが2割強でその他カジキ類が若干見られているが大した事はないようである。

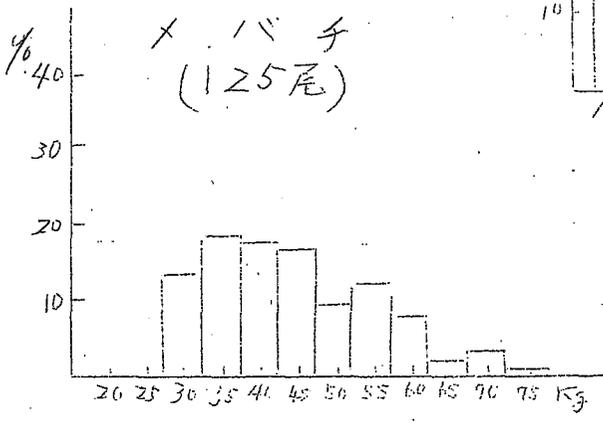
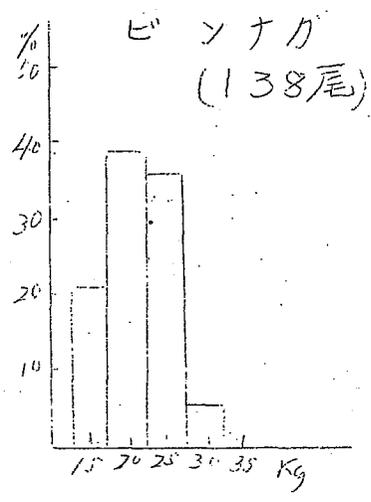
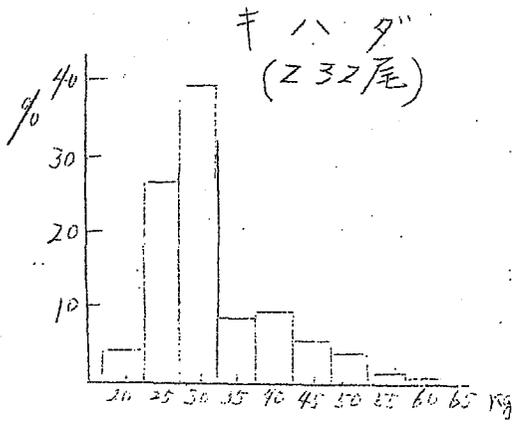
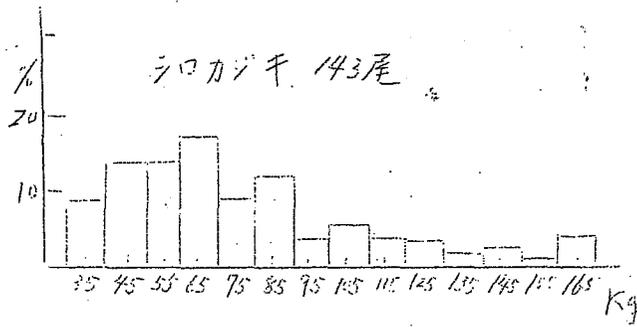


10月漁場図

(10月のマグロ、カシキ釣獲率)

上段 釣獲尾数

下段 釣獲率



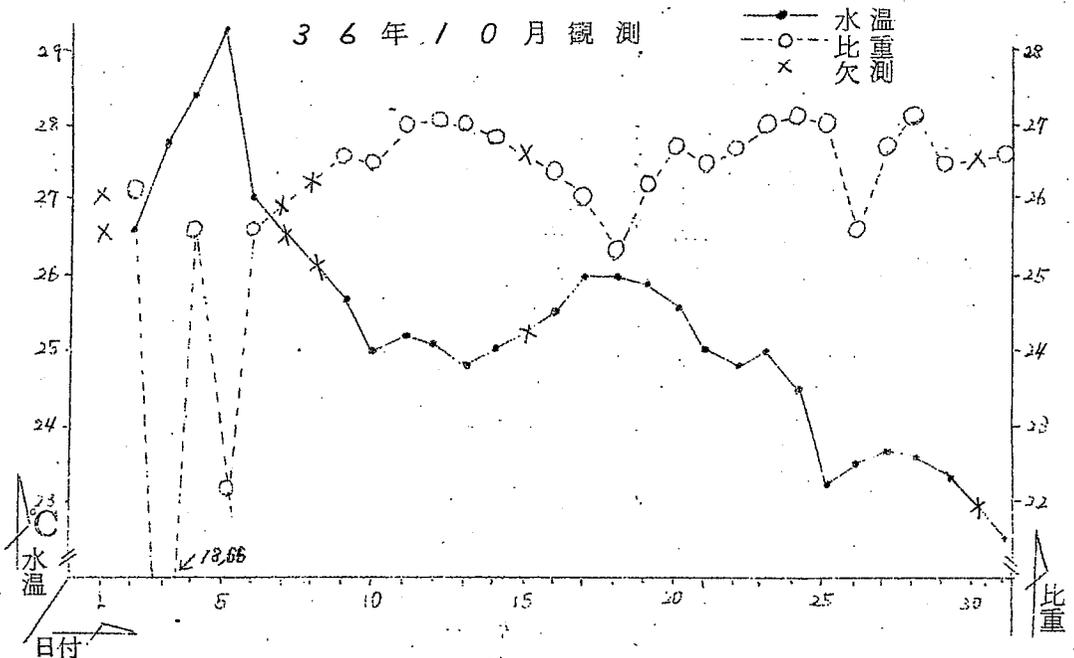
カジキ、マグロ類体重組成

定置観測（10月分）

養殖部 東 邦 彦

先月までは釣人多く、防波堤上の定置観測場所を占領されていることがしばしばあつた。釣人のあるものは立ち止って採水器をのぞき、ある人は何をするのかと観測中の我に問うてみたり……………近頃は「つりのシーズン」も遠のいてしまった。そうでなくても大は2kgはあろうスズキからアメノウオ、フグ、ネズミザメさらに小さなメダカのような小魚の群れ等が目を楽しませてくれたものだが、今はただ風と波と時には潮のしぶきが我を見舞うだけとなり、来る日も来る日も曇か雨か、灰色の雲が頭上をおく。

10月の水温、比重は全般的に見て前月より水温は2.5℃も下つている。6日迄変動がはげしいが以降は安定してきている。換算比重は特に顕著で26.5附近を保っている。水温については、大きい変動でなくシグモイド曲線のような弧を描きながら順調であるが9月より急下降している。



鹿元島港外正位觀測(昭和30年7月)

日	測時	天候	雲量	風向	風力	波浪	气温	水温	換算比重
1	—	—	—	—	—	—	—	—	—
2	1450	0	10	NE	5	4	26.4	26.6	26.12
3	1550	0	8	NE	2	1	28.2	27.8	18.66
4	1700	k	9	SSE	2	2	28.2	28.4	25.64
5	1720	BC	5	SSE	2	2	28.2	29.3	22.15
6	1735	d	10	SSW	3	2	26.4	27.0	25.62
7	—	—	—	—	—	—	—	—	—
8	—	—	—	—	—	—	—	—	—
9	1805	BC	3	N	3	2	23.7	25.7	25.56
10	740	B	0	NE	1	1	20.5	25.0	26.48
11	925	B	1	NE	3	2	21.2	25.2	26.95
12	1000	B	1	NE	3	2	22.1	25.1	27.03
13	910	B	0	ENE	3	2	22.4	24.8	26.95
14	950	B	1	NE	3	2	22.2	25.0	26.79
15	—	—	—	—	—	—	—	—	—
16	1115	BC	5	NE	3	2	26.4	25.5	26.35
17	1350	0	9	SE	1	1	26.4	26.0	26.08
18	1620	0	9	SSE	1	1	27.4	26.0	25.29
19	1650	0	9	W	1	0	27.1	25.9	26.22
20	1700	BC	3	W	1	0	27.4	25.6	26.68
21	1720	BC	7	NE	4	3	23.1	25.0	26.48
22	800	0	8	NE	5	4	23.9	24.8	26.68
23	845	0	9	NE	1	0	25.4	25.0	27.03
24	850	0	10	NE	3	2	22.2	24.5	27.07
25	830	0	10	NE	6	5	20.4	23.2	27.01
26	900	0	10	SSE	6	5	23.3	23.5	25.57
27	930	0	9	N	3	2	20.8	23.7	26.77
28	1030	BC	7	NNW	4	3	21.2	23.6	27.11
29	1000	B	0	NNW	3	2	21.6	23.4	26.50
30	—	—	—	—	—	—	—	—	—
31	930	B	1	NE	4	3	19.3	22.5	26.68

36年10月旬間平均表

		表層水温	換算比重
上旬	平均	27,11°C	24,46
	前旬差	+ 0,19	- 1,80
中旬	平均	25,45	26,48
	前旬差	- 1,66	+ 2,02
下旬	平均	23,92	26,69
	前旬差	- 1,53	+ 0,21
月	平均	25,49	25,87
	前月差	- 2,48	- 0,06
間	最高	29,3	27,11
	最低	22,5	18,66

枕崎湾魚礁効果調査結果概要

塩田 正人・荒牧 孝行

I、人工魚礁効果調査

枕崎湾のコンクリート魚礁は昭和33年魚礁設置予備調査を行ない（うしお第32号）、35年12月より36年1月にかけて107個のコンクリートブロックを投入した。

調査船 本場所属 かもめ16TS 60HP チーゼル
魚探 VANGRAPH（海上電機K.K）

指向性 200KC 3°（前後左右）

紙送速度 100mレンジ 20^{mm}/m

記録 湿式（乾燥装置）

投入場所 開聞岳 SE¹/₂E、赤燈台 NW¹/₂W
枕崎港から2500mの地点

調査年月日 昭和36年9月20～21日

9月20日魚探で探索した結果、魚礁は水深62mの凹型をなした海底にかさなり、三角形の形状を呈していた。魚群はコンクリートブロック魚礁の上部に影像がみられ、またその附近にもみられた。21日の調査においても影像の形、量もほぼ前日と同じであつた。魚種としてはムロアシ、或いはサバと推察される。

II、天然魚礁の地形及びその魚群棲息状況調査

コンクリートブロック魚礁設置場所の附近に瀬があり、特に鯨ヶ瀬は天然魚礁として利用度の高いものである為どのような形状を呈し、そこに棲息する魚群を魚探にとらえることが出来るかどうか調査を行なつた。

調査地点はコンクリートブロック魚礁より東側（鯨ヶ瀬）と西側（松崎ヶ鼻沖）の2点について八点方位により調査（枕崎湾魚礁調査図参照一点線の部分）を行なつた結果鯨

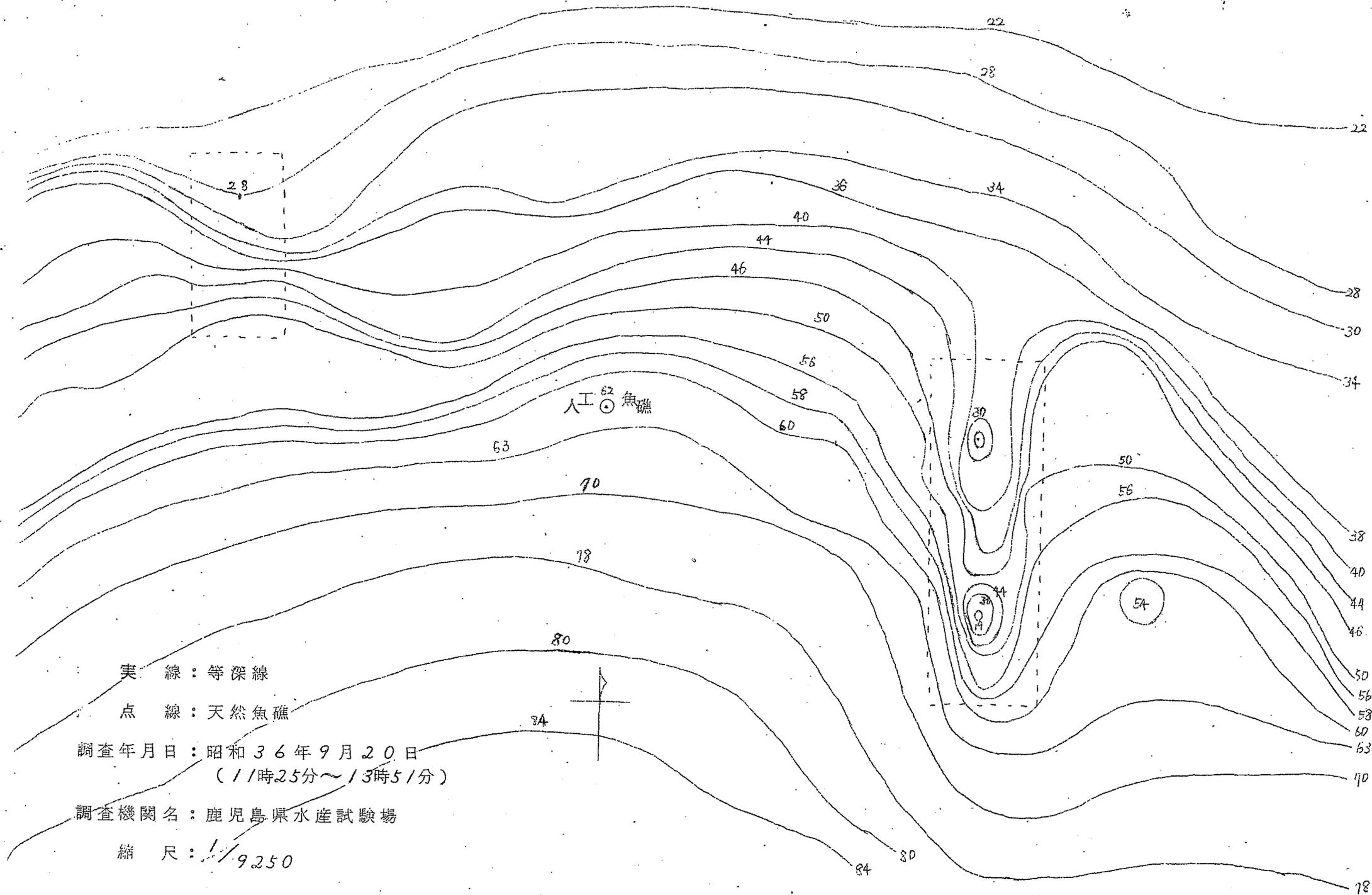
ヶ瀬は北から南に突出し、頂点は2つの部分にわかれ、その中の南側のものは水深19 mの所まで急に隆起していた西側の松崎ヶ鼻沖の瀬は水深25 mの所から階段状に急に50 mと深くなっていた。

魚群はいつでも人工魚礁ほどの影像が現われず、その形状も異なっている点から人工魚礁に棲息する魚種と、天然魚礁に棲息する魚種は違うのではないかと思われる。(聴取り調査の結果、鯨ヶ瀬ではヒラマサ、カンパチ、ハガツオ、イカ、サバが漁獲されている)。

四、考 察

天然魚礁の勢力間に人工魚礁を設置しても、その効果は減殺され、人工魚礁としての目的は達成されないのではないかという問題があつたが、今回の調査では、魚探に明確に集魚した魚群影像がみられ、魚礁としての集魚力はかなりあると思う。しかし、100個程度のコンクリート魚礁では魚群も少なく、したがって利用隻数が限定され、充分利用するだけの効果をあげることが出来ないので現在の投入地点を中心に次第に増加拡大した魚礁に設置する必要があると思われる。

枕崎湾魚礁調査図



実線：等深線

点線：天然魚礁

調査年月日：昭和36年9月20日
(11時25分～13時51分)

調査機関名：鹿児島県水産試験場

縮尺： $1/9250$

未利用資源の利用について
(ウニの生産と加工化)

製造部 下 窪 諭

経済成長に伴う生活経済の高度化により国民の食生活が向上し副食品も変化しつつある今日、水産加工業も従来通りの考えを墨守しては時代の推移について行けない。食品は常に需要者の嗜好に適するものであり、又新製品の研究に努めなければならないが、本県各地の沿岸に産する有用未利用資源のうち、ウニの利用を取上げたいと思う。ウニは特殊の風味のため多くの人々に珍重され、ウニと言えば一般に福井、山口、長崎が主産地となつているが、その他北海道、静岡外数県においても加工されている。そこで本県産のウニはどうしているか、それらは原料として山口、長崎等に送られて其処で加工製品化され好評を呼んでいるのが実状である。

数年前から出水郡長島、奄美大島には山口、長崎から時期的に業者が乗り込み、生ウニ又は塩ウニとして買付けているが、長島では本年400万円(原料価格)程度の生産をあげ、現在、主産地長崎では長島産ウニが最上等とまで言われている。又、奄美大島及び数地区においても同方面業者と相当量の取引がなされているが、本県にはこの他にも多くの未利用地区があると思う。

本県では、バフンウニ、アカウニ、ムラサキウニ、シラヒゲウニが主とされ、本県沿岸は何処にも棲息していると考えられる。採捕適期は大体晩春から9月頃までだが、生産地によつて遅速もあるので採算等考慮の上採捕、適期に送るべきである。

ウニは婦女子等でも簡単に採捕でき、家内工業として最適で漁家経済向上に大いに役立つものと考えられる。

※ 採取方法

採捕には色々方法があるが、奄美大島では①「手捨い」及び②「たも網採取」(名瀬)があり、大汐の干潮時に干上つた洲及び岩の間のウニをたも網で掬い取る。1人当り突働3時間で採取量80Kg(殻付)にも達する。③「潜り採取」(奄美大島、請島)は干満を問わず(なるべく干潮時がよい)を浮かべ、2~4ヒロを潜つて採取する。3人/組3時間の採取量360Kg(殻付)程度である。

※ 製法(加工法)

1. 原料処理

④ 殻を割る方法——色々あるが、殻片又はトゲの混入防止に注意する事が肝要で、一例を挙げればウニの口腔部を上にして竹又は鉄棒で直線的にウニを叩き、裂目を入れ両手で真二つに割る。

⑤ 生殖巣の採取——割つた殻を振ると内臓物は飛び出し、生殖巣だけが殻の中に残る、これを海水にて濯ぎ篋で傷つけないように注意して採取する。採取した生殖巣は「ハエ」等がつかないように海水を満たした容器に投入、蓋付の容器に入れておく事が肝要である。「ハエ」等の附着は腐敗変質の主因となるので嚴重な注意を要する。

⑥ 洗滌及び水切——生殖巣を容器中の海水で丁寧に洗う。右手でおくように軽く攪拌しながら爽雜物を除去する。この際、内臓は生殖巣より軽く水に浮くので分離し易い。しかし殻片やトゲは除去が極めて困難であるからよく注意して行なわなければならない。次にこれを網目の笊に取り上げ日蔭の冷所で充分水切りを行う。この時単に笊の中で行うだけでなく更に木灰上に木綿を敷き、その上に拵げて水分を吸収させる方法もある。

2. 塩漬

水切りを終了したものは筈のままに食塩10~20% (重量比) を数等分して万遍なく撒布して「ハエ」等を防ぎつゝ2,3時間放置して水分を充分摘出した後、つぼ又は樽に詰め熟成させる。

食塩は苦汁分の少ない精製品を理想とする。

(註) 用塩量は生殖巣の水切りの程度、製造の季節等に応じ、加減することは勿論であるが、要は固有の香味を失なわず腐敗を防止出来る範囲に加塩すべきであることを附記する。

3. 煉うに

塩ウニを2ヶ月程度冷蔵庫で熟成させた後煉ウニを作るのが理想であるが、冷蔵施設の利用できない所は樽詰に際し適度の増塩を施す必要がある。その製法は樽詰後一週間経過後取り出し追板の如き平滑口板の上で少量づゝ竹筥又はニッケル筥で煉りつゝ混在している殻の破片やトゲを丁寧に除去した後アルコール(未変性又は純アルコールで濃度90度以上)を塩ウニ1貫目に対し2合~3合を加えて煉り上げ、更に味を増すため「味の素」を使用することもある。

この煉りの目的は混入する爽雑物を除去すると同時に食塩を均一にして優良製品を作るにある。

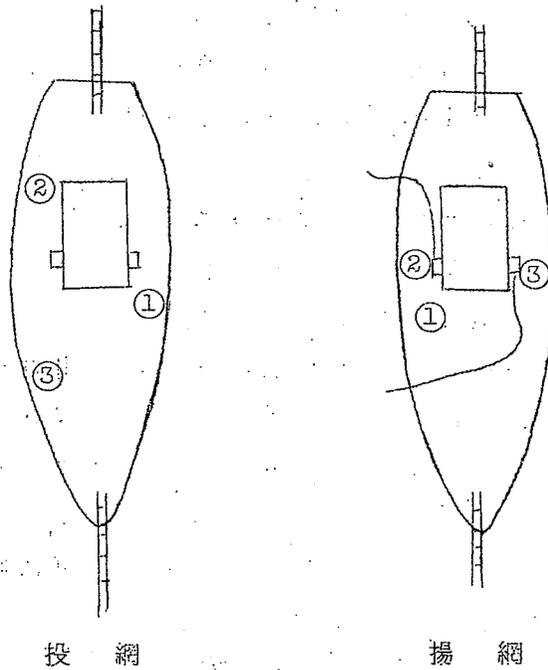
色素又は調味料の使用は商品価値を増すが増量を目的として他の物質と混合するの不心得は慎むべきであろう。着色剤は苦味を有するから使用量を誤らないよう注意すべきである。

小型漁船利用棒受網（浮敷網）漁業について

先進地視察：山口県湊漁協（第2報）

志布志町駐在普及員 西 清 晴

7、乗組員の配置



① 誘導灯操手

②③ 網を投下する

① 誘導灯操手

②③ ローラーで環網を巻く

8、網の規模と乗組員

湊漁協における棒受網漁業の漁船使用数並びに乗組員数は次のとおりである。

使用漁船数	乗組員	屯数
1	1人～3人	2屯未満
1	3人～5人	2～5屯

9、出漁経費及び漁網製作費

出漁1日の経費（水 燃料 電球代）

1000円～2000円

販売手数料～5分

人件費

当地の棒受網漁業の乗組員は夫婦息子娘或いは親戚の者等一大家族で構成している。

漁網製作費

棒受網（打廻し 60K）1統分28万円

10、漁獲状況

1隻当りの年間漁獲高は3～5屯級で普通

100万円～120万円

11、棒受網漁業と関連する水産加工業

当地の棒受網漁業による漁獲物はその80%が加工品とされ、鮮魚の価格維持に大きく影響している。なお、鮮魚は地元消費に当てられる以外は他の市場への出荷は全然ない。

① 加工場 26

1日の処理能力 約5,000箱 / 工場平均 250箱

② 主なる製品

煮干品 塩干品 調味加工品

③ 製品の販売

各工場毎に出荷或いは買受人へ直接販売

④ 年間生産高

7,000万円位

⑤ 出荷先

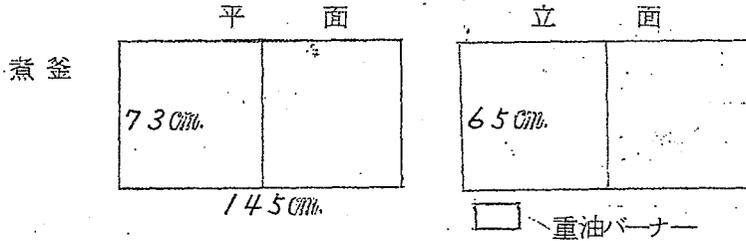
関西 関東を主として各地に

⑥ 工場規模の1例

工場 平家 40坪

煮釜 1連 鉄板製 73cm. × 145cm. × 65cm. (深)

チェンブロック 重油 バーナー付



セイロ 6,000枚 67cm. × 67cm. × 4.5cm. (高さ)

従業員 10名

製品は 煮干 塩干 調味加工品

現在 片口いわしの煮干及びうるめの塩干を製造中
うるめ塩干の製法

Be 20° の立塩漬に水を加え水温を 10°C 位に
下げ約8時間塩漬晴天3日～4日の日乾で製
了する。

なお天候の悪い場合は鮮度保持剤ワラスキン
を使用する。

製品1貫1000円内外

12. 現在本県で(有明海、北薩海区)で操業中の棒受網漁
業との比較。

① 相違点

① 漁船

小型である。即ち棒受網漁船65隻のうち5吨以下
の船が59隻

② 網

○浮子方が長い(当地で普通60K90m)

○海だちが浅い(15K22.5m)

○網目が小さい

③ 操業

- 錨を固定し、錨綱で操作する。
- 人員が少なくても操業できる（当地で2～4名）
- 網口を広くするため張出竹を船首、船尾に真すぐ装置する。
- 揚網、網口を環締にして環綱をローラーで巻く
（前網の揚がるまでの時間ローラー巻で1～2分
前網たぐりの場合 5分間）
- 水中灯は点灯したまま、船底を通つて魚群を網の中に誘導する。

㊦海況（操業海区）

北薩地区と類似しているが有明海区に比べ

- 深度が浅い
- 波浪が小さい（一般に）
- 潮流がゆるやかである。

㊧その他

- 発電制限 5 KW
- 乗組員は一家族で構成している。
- 関連加工業が発達している。

② 特 長

浮子方が長く網目が小さい。海だちが浅い等のことから鹿児島県の棒受網では量的に漁獲されていない。片口いわし、きびなどが多く漁獲される。併し海だちの浅い事は一方魚群の割には漁獲が少ない。

③ 導入考究したい技術

一応次のようなことが考えられる。

◎海況の類似した北薩海区では

- 片口いわし、きびなどの漁獲を目的としてのこの網の導入は効果を上げられるのではないか。

◎有明海区では

- 海の深い有明海区では網の海だちが浅すぎる。

- うるめ、むろの漁獲を目的とする場合、目合が小さすぎて潮流によつては網をふき上げるのではないか
- 集魚用水中灯は2,000 W 2個を使っているが明るさは適当なのか。
- 上記の点を考慮して浮子方を当地の網のように長くする。
- 前網を環締めにしてローラーで引揚げる。
- 水中灯を点灯したまゝ船底を通じて魚群を誘導する（船型を考慮して）
- 片口いわし、きびなど漁を目的とする場合は適応する。

以上の事等は導入研究すべきである。

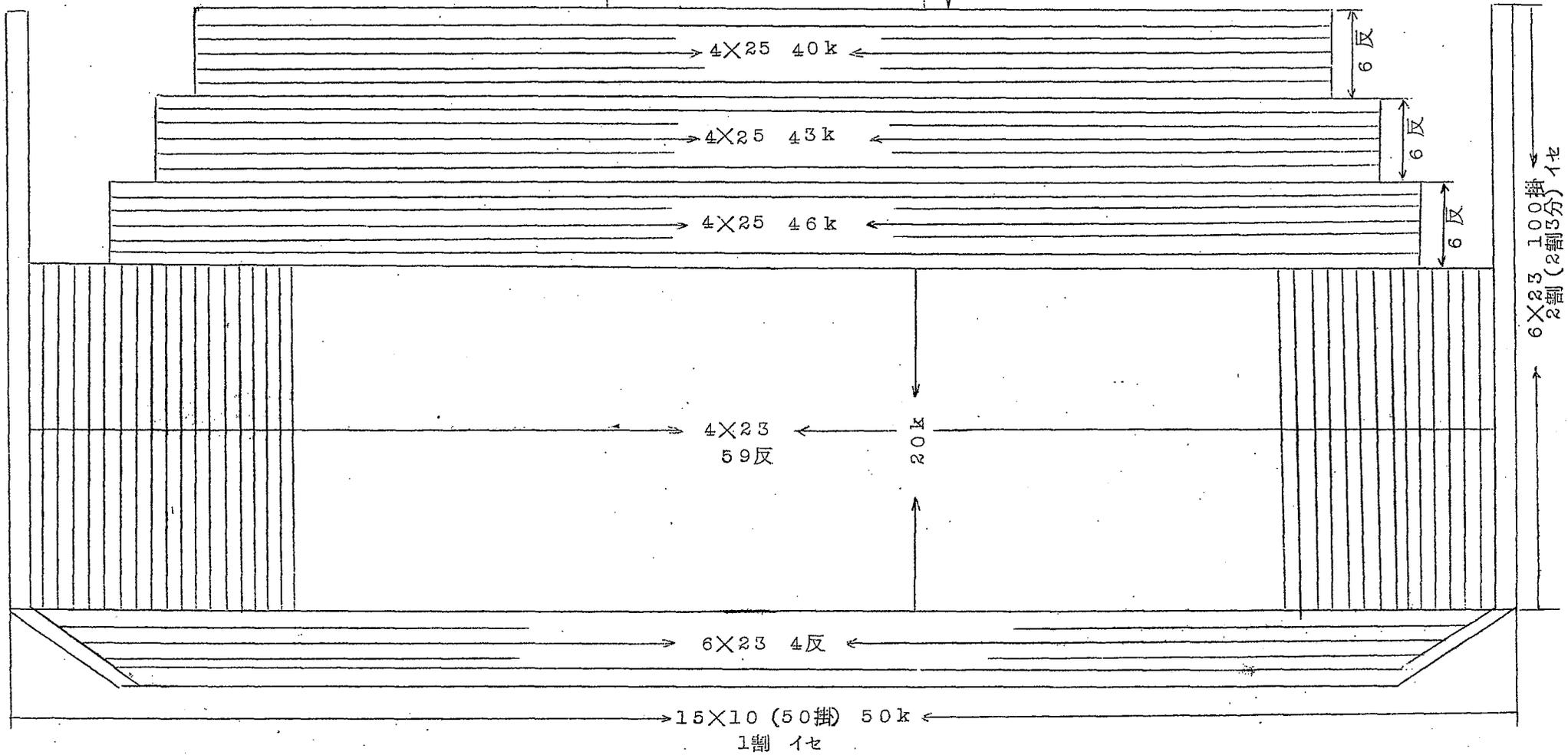
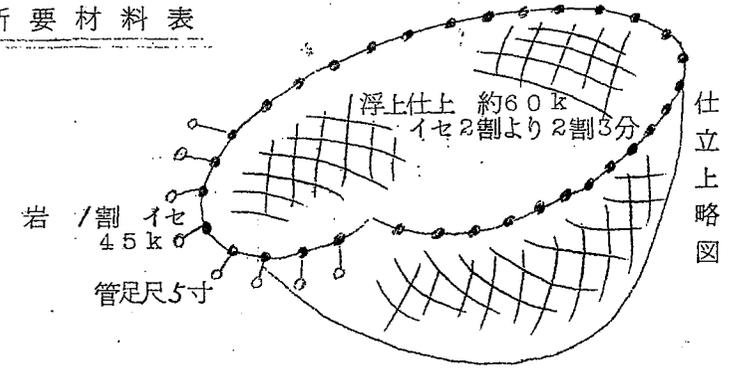
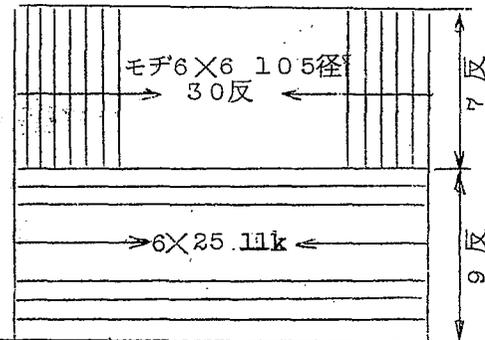
更に片口いわし、きびなど漁を目的とした場合 漁期（8月～1月）に制約された現在の棒受網漁業は周年操業が可能となる。

必要資材明細

網地	テビロン蛙又	4×23	1180k
	"	4×25	774"
	"	6×23	280"
	"	6×25	99"
	"	15×10	35"
複資材	クレモナ編網	6.6×10.5	210"
	クレモナロープ	25分	1丸
	"	3分	1"
	仕立糸クレモナ糸	9本	600匁
	"	1.2本	200"
	"	90"	600"
	"	120"	200"
	合成浮ビニロンG ₃		130ヶ
	鉛岩管	30匁	120"
	丸	4分	12"

標準型

浮敷網の仕立図及び所要材料表



☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆
☆ 奄 美 短 信 ☆
☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

鹿児島を隔ること約205哩 波にポツカリ浮くように
点在する常夏の島 日本最南端の島と聞いただけで波又波
にゆられながらの20時間余の船旅も一向苦にもならない
胸に直射の照り輝く海浜や水辺にウツソウと生い茂る情緒
的な亜熱帯樹の涼しい木陰を相像しあこがれているせいも
あろう。が、しかし島に初めて来た人々は名瀬港や古仁屋
港からの眺めは実にさびしく、山々は貧相な子供のトラ刈
頭のようなハゲ山でその山の麓までトタン屋根が立ち並び
屋根にはひからびた陽炎が立ちのぼり、うるおいのある島
の片りんさえもないとつぶやくその言葉に左右されたので
もなかろうが、今島においては緑地帯設置の陳情や花一ぱ
い運動、それに道路コンクールなるものがなされ、美化運
動に乗出している。又、瀬戸内町においては観光協議会が
発足し、恵まれた資源を利用、総額/億余円の巨費を投じ
恒久的な観光施設をつくる構想で海中鏡つき遊覧船の設置
をし、近くアフリカからワニを購入放し飼いもし、近い将
来観光地としての期待も大きい。

※初めて斗牛を見た人が、相撲とりだけに横綱、大関があ
るものと思つていたら牛の横綱もいるとびっくりしてい
た。今月5日西宮球場で開かれた奄美牛対隠岐の斗牛は
東方(隠岐牛)横綱柳屋以下の力牛、西方(奄美牛)横
綱雷電以下の力牛……………/ : 6で奄美牛の勝利、朝夕闘
も奄美牛の如く勇敢に相手の胸底を突き破らんか 声援
も空し分離症にて休場。

※去る土曜日の午後鉛筆を借りようと妹の筆箱を開いたら
紙でくるくる巻いたネズミのシツポが2つ出て来た。理

由を聞いてみるとシツポ / つとテレビや電機洗濯機の当
る抽せん券と町役場で交換するとか。ネズミのシツポに
も懸賞付きと言う有難い世の中と相成った。

※第4回古仁屋職域大運動会も / 9日古中校庭にて開かれ
た。秋晴れの好天氣に恵まれ、和やかな中に競技を楽し
んだ。なお当分場は県職として合併、分場長以下全員参
加しI技師の努力の結晶でチームワークも取れ好成績を
納めた。

とりとめない短信になりましたが悪しからず御赦し下さい
本土の皆さんの御健斗を祈ります。

Y、S 生

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆
☆ 各 部 の 動 き ☆
☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

○ 製 造 部

※ / / 月 / 日 ~ 30日

からすみ及びぶぐ加工指導 (当加工場)

漁連春口、指宿市田中、東串良北山、長島町川上各
氏からすみについて来場

南海産業K、Kぶぐについて来場

※ / / 月 8日

汽缶検査

※ / / 月 / 4日 ~ / 5日

フィッシュ・ケーキ製造試験

※ / / 月 / 6日 ~ / 7日

乾燥機補修

※ / / 月 20日

- からすみ加工指導のため藤田技師指宿出張
- ※ 1/1月22日
沿岸漁業改良普及員西技師、岡田技師、入枝技師加工事務打合せのため来場
- ※ 1/1月27日
ソーセイジ製造試験
- ※ 1/1月28日～29日
ソーセイジ包装及び魚粕製造試験
- ※ 1/1月30日
ソーセイジ及びフィッシュ・ケーキ製造準備
- ） 調 査 部
- ※ 1/1月8日～11日
ハマチ寄生虫対策試験（於山川）
- ※ 1/1月10日
ドラム缶魚礁調査（湾内）
- ※ 1/1月15日
水産関係広報会議（漁連）
- ※ 1/1月15日～20日
長島地区養殖（蓄養）適地予備調査
- ※ 1/1月24日
ドラム缶魚礁調査
- ※ 1/1月25日
長島地区ハマチ蓄養候補地打合会（漁政課）
- ※ 1/1月28日
内ノ浦漁協長1名 ハマチ種苗採補、一時蓄養について来場
- ※ 1/1月30日
山川大茂氏 養鰻予定地の水質について来場
- ※ 1/1月27日～29日 図書室整理

○ 養 殖 部

※ / / 月 / 日

豊田部長 大口養魚場落成式へ

※ 川関係

時節柄新村技師多忙。ノリ網整備、杭打ち、室内採苗実験、附着状態の検鏡、又県内各地へ指導のため出水、喜入、垂水へ出張等々月間を通じて大奮闘。

/ / 月 / 4 日

中間普及員来場 東町のノリ養殖指導について

/ / 月 22 日

中間普及員来場 東町のノリ増殖法について

※ 貝類関係

瀬戸口技師、トコブシ、クロチヨウガイの固定標本作成に励進。

/ / 月 29 日

東技補はアケガイ調査のため指宿へ出張。

/ / 月 29 日

満尾氏来場 貝類の人工受精について

※ 漁場観測関係 速報 / / 日発送

東技補は / 9 日～25 日迄観測指導のため種子ケ島へ出張

※ 海藻関係

ワカメは海瀉地先で行なっているが未だ展開の時期に達しない。

○ 漁 業 部

※ 照 南 丸

/ / 月 / / 日

本年度第 / 次南方マグロ漁業試験のためパラオ近海向け出港。

※ か も め

／／月 5 日

第 6 次 集 団 操 業 よ り 帰 港

／／月 8 日

ぶり仔蓄養調査（海潟）

／／月 10 日

ドラム缶魚礁調査（鹿兒島湾内）

／／月 22 日

第 7 次 集 団 操 業 指 導 の た め 出 港

※ そ の 他

／／月 10 日

東海さば漁業調査のため肥後技師金比羅丸に便乗
24 日 帰 港

／／月 10 日、／／日

種子島地区水産講習会、技術指導のため永浜技師
出席

／／月 27 日

水産課主催漁業技術修練会出席（永浜技師）

／／月 27 日

枕崎市白沢において魚探指導講習会に出席
（竹下技師）

※ さば魚体測定

／／月 9 日 近海さば

／／月 13 日、16 日、24 日、27 日

東海さば。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆
☆ 分 場 の 動 き ☆
☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

○ 製 造 係

※ 10月20日～31日

10月末におけるうに試験は初めての試みで地元（請島）においてもその成果が期待されたが結果的には品質歩留りともに利回（6月）第2回（7月）に比して劣り（資料整備検討中）この結果当地のうに加工の適期について或る程度の見透しを得た。

○ 養 殖 係

※ 先月に引続いて、まべ、くろちよう貝幼生の飼育のため、餌の培養、遠沈、投餌、かくはん等の一連の作業が続けられ10月18日には110数個のくろちよう附着稚貝を教えるに至ったが、その後水温、その他の飼育の条件が悪くなつたとみえ、去る10月30日には39個に減り憂慮される事態が生じてきた。

※ 大島支庁からの依頼により、ひとえぐさ網ひゞ養殖指導のため11月4、5日（瀬戸内地区）11月6日～13日（笠利、龍郷、名瀬市地区）に赴き現地指導をなした。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆
☆ 養 魚 場 の 動 き ☆
☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

※ 11月1日

落成式のため、水試（福満、野村、松田、西郷）漁政課（上妻、郡山、岩松）来場。

※ 11月2日 落成式

この日雲一つなく秋晴れにて池の水益々澄み、コイやマスまでがこの日を待っていたかのようにすいすい泳ぐ、午前11時2人の神官の弔場と共に副知事はじめ関係各位の出席のもとに養魚場落成式は挙行された。

※11月6日 来訪者

吹上町役場吏員20名 大口蚕業指導所員8名

※11月7日 養鯉組合食用ゴイ取上げ運搬指導

来訪者 布計小中学校児童50名 山川町大茂氏

※11月8日～10日

場長、池田、竹下鹿兒島へ、予算編成及び事務連絡

来訪者 出水市大川内青年団20名、大口市農林課10名

※11月13日 来訪者

水試庶務部長 マス販売

※11月14日

食用マス販売。当場の初出荷であり、しかも本県におけるマスの初出荷であった。単価Kg当り280円で地元旅館業者等に20Kgを販売。販売時期が遅れたため大きすぎると懸念する向きもあつた。

※11月16日 来訪者

水試永浜技師網構成指導 全員結索法及び網の作り方を熱心に講習。

※11月20日～22日

出先機関職員巡回研修会（大口保健所）

※11月21日 来訪者

志布志教育委員会10名

※11月27日 来訪者

大口教育委員会6名

※11月27日～29日 場長川内へ

養鯉講演及び実地指導。

※11月28日 来訪者 出水市高尾野青年団4名

